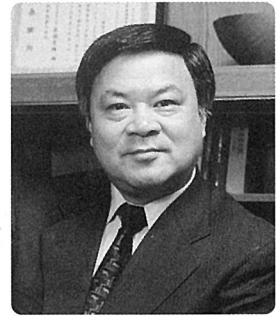


# 年頭のごあいさつ

社団法人 北海道林産技術普及協会

会長 高橋 秀 樹



あけましておめでとうございます。平成18年の新春を会員皆様とご一緒にお慶び申し上げます。また日頃より当協会の運営に対し、ご指導ご協力を賜り誠にありがとうございます。

当協会は北海道立林産試験場の研究内容や成果を広く知らせるべく、「ウッドィ・エイジ」の刊行、「木と暮らしの情報館」での展示による木材・木製品のPR、試験場と業界との間の情報交換など、当協会の主たる役目を果たして参りました。

7月恒例、林産試験場と共催の「木のグランドフェア」には大勢の子ども達が集い、特に木を五感で感じてもらうコーナーでは5～6種類の樹種を展示し、それぞれの木目の美しさの比較、木の持つ匂いの違い、木の手触りと重さの比較、そして木を打った時の音の違いなど、直接子供たちが体験することによって木に対する興味を喚起していただけたと思います。

さて世の中、株価が16,000円台を回復し、経済は踊り場から上昇期に入ったと言われておりますが、それは輸出企業や金融世界の好調によるもので、我々木材、家具、住宅業界はまだまだ低調であります。むしろ原料の大幅値上がりによるコストアップが木材製造業自体を左右しかねない状態であります。

10%もの高度成長を誇る中国は世界中から木材原料を買い漁り、そのために外材の価格は上昇の一途であります。特に国際石油価格の上昇により、造材、運送、製造コストが上がり、接着剤や包装ビニールなどの資材コストも上がりました。灯油も3年前30円代であったのが今や60円代と倍になり、いよいよ脱石油エネルギーに移行しなければならない状態であります。

今最も現実的な代替エネルギーは木質バイオマスであります。木質廃材や間伐下材の燃焼による発電や、ペレット燃料化などがどんどん実用化されれば、石油の代替エネルギーの確保と「森づくり」が一举両得で推進されるのです。

また、外材の値上がりにより、木材産業は国産材にシフトしつつあります。梱包材はニュージーマツからカラマツへ、針葉樹合板はロシアカラマツから道産カラマツへ、製材工場はロシアエゾマツから道産トドマツ人工林材へといった具合であります。また、トラスなどの輸入組立梁が大幅値上がりになっており、林産試験場開発製品である道産I型梁に注目が集まっています。

また、最近の耐震設計偽装事件で、マンションなどRC造建物の安全性への疑問など、集合住宅の持つ多くの問題点が明らかになりました。一方このことにより木造一戸建への再評価が起きております。

以上、木質バイオマスの観点から、外材から国産材へシフトの観点から、さらに木造住宅に評価が高まっている観点から、住宅に安全性と健康を求める観点から、林産試験場が今年、木材業界に貢献できることが多々あると思います。

北海道林産技術普及協会は「北海道立林産試験場」の成果を広く世に知らせ、もっと利用してもらうこと、また業界の要望を試験場に伝えることを役目として、本年も鋭意努力して参ります。今年も変わらぬご指導、ご支援をお願いいたします。